

WACCA

MONTHLY REPORT



11/26 あそび基地

園内は、すっかり紅葉してました。

11月のあそび基地は、須磨離宮公園に行きました。朝は小雨まじりの曇天でしたが、離宮公園に着く頃には、すっかり雨も止んでいました。



まずは、レストハウスで昼食です。



いっただきま〜す！！

しっかり食べたら
アスレチックへ！

アスレチックには、5歳から11歳までの子どもが9人参加しました。子ども1人に大人2人くらいがつくようにして一緒に回り、怪我や事故もなく、全てのミッションをクリアしました。



もっと遊びた〜い



ジャンボすべり台は、
子どもたちに大人気でした。

水槽だより



WACCAの水槽に、グッピーが仲間入りしました。オスはカラフルで、尾びれも長く格好良いのですが、メスは先住のメダカに似ていて、一目見ただけでは区別が付きません。しかも、お腹の大きい雌のグッピーがいたようで、水槽は今、赤ちゃんグッピーもいます！



WACCA 小さな読書会



レインボーブックガイド 多様な性と生の絵本

著者：草谷桂子

出版：子どもの未来社

<感想>

LGBTQやジェンダー、SDGsがテーマだというと、最近に出版された教育的な絵本ばかりかと思っていましたが、1963年に出版された『ぐりとぐら』も取り上げられていたことにビックリしました。

そして、ぐりとぐらが男児の双子の野ネズミだという解説文を読んで、更に驚きました。

青い服と赤い服を着ているため、男女の双子だと思いついていましたが、それこそが無意識のジェンダーバイアスなのだと思われ、反省です。

これは一つの事例に過ぎませんが、昔読んだ絵本も新しい視点で読み返してみたいし、これから読み始める絵本も「作者の意図」を意識しながら読んでいきたいと思いました。

もちろん、子どもたちにもまっさらな瞳で読んでもらいたい絵本ばかりです。

今は、子どもたちが学校で習ってくる言葉に、大人がついていけないこともあると思うので、ここで取り上げられた絵本から手始めに学ぶのも良いかもしれません。

紹介された絵本たちの何冊かはWACCAの絵本棚にも並んでいて、新しい読者を待っています。

<内容>

この本には、40年以上も家庭文庫を主宰し、子どもの本に関わってきた著者が選んだ232冊の絵本が収録されています。

レインボー(虹)は多様性を表す象徴で、この本ではジェンダーや性教育、SDGs、人間関係などを「自分らしく、あなたらしく」「多様な性・多様な家族」「子どもをとりまく様々な問題」「未来に繋ぐ」等に分類して取り上げられています。